

会社概要

平成25年3月31日現在

商号 デリカフーズ株式会社
英文社名 DELICA FOODS CO., LTD.
設立 平成15年4月1日
創業 昭和54年10月6日
所在地 〒121-0073
東京都足立区六町四丁目12番12号
資本金 759,755千円
従業員数(連結) 233名(他、平均臨時雇用者数1,113名)

役員 (平成25年4月8日付で役員の異動がありました。)

代表取締役社長	館本 勲武	代表取締役社長	小笠原 真清
専務取締役	小笠原 真清	専務取締役	杉 和也
常務取締役	杉 和也	常務取締役	大崎 善保
取締役	大崎 善保	取締役会長	館本 勲武
常勤監査役	野村 五郎		
監査役	山口 隆		
監査役	田中 清隆		

会計監査人 仰星監査法人

株式状況

平成25年3月31日現在

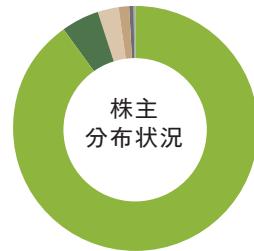
発行済株式総数 3,121,000株
株主総数 2,348名

大株主

館本 勲武	…613,000株
館本 篤志	…509,600株
デリカフーズグループ	…72,200株

従業員持株会

野村 五郎	…57,200株
小笠原 真清	…53,000株
岡本 高宏	…50,000株
鬼頭 利光	…41,000株
高萩 勝利	…41,000株
岩崎 泰次	…39,900株
杉 和也	…38,700株
大崎 善保	…34,100株



当社は平成25年4月1日付で普通株式1株につき、普通株式2株の株式分割を行っております。株式分割は平成25年4月1日を効力発生日としておりますので、株式状況は株式分割前の株式数により記載しております。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
定期株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081
東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL.0120-232-711 (通話無料)

同連絡先 東京証券取引所(証券コード3392)
電子公告により行う
公告掲載 URL <http://www.delica.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

上場証券取引所 東京証券取引所(証券コード3392)
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載 URL <http://www.delica.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構(証券会社等)で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



本印刷物には、制作時に消費する電力相当のグリーン電力を利用し、使用する紙量に相当する植林を実施することで、環境に配慮した冊子制作に取り組んでいます。マークは、株式会社ツバルの森が提供する太陽光発電によるグリーン電力証書および植林証明書の利用を証するものです。

〈グリーン電力証書とは〉
CO2を排出しない自然エネルギーにより発電されたグリーン電力の環境付加価値を、証書として取引できるようにしたものがグリーン電力証書です。グリーン電力証書を購入する企業が支払う費用は、自然エネルギーの発電事業者へ還元されることで、日本国内における自然エネルギーの普及促進、CO2排出削減に貢献することができます。



デリカフーズ株式会社

〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



【お問い合わせ】

TEL 03(3858) 1037
FAX 03(5851) 1056
<http://www.delica.co.jp/>

デリカフーズ

IR最新情報はHPをご覧ください。



デリカフーズ株式会社
DELICA FOODS CO., LTD

東証2部 証券コード3392

10

第10期 事業報告書

平成24年4月1日▶平成25年3月31日

INVESTOR RELATIONS

DELICA REPORT

[デリカレポート]

TOP MESSAGE

株主の皆様へ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。このたび2013年4月8日をもちまして、デリカフーズ株式会社 代表取締役社長に就任いたしました。株主の皆様には今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

当社を取り巻く環境は、震災復興やアベノミクスに代表される政府の積極的な経済政策などを背景に、主な販売先である外食産業の需要も持ち直しつつあり、新規顧客の獲得や既存取引の拡大を推進することができました。当連結会計年度における売上高は24,224百万円(前期比4.5%増)、営業利益は676百万円(前期比9.8%増)、経常利益は663百万円(前期比12.5%増)、当期純利益は411百万円(前期比74.7%増)となりました。売上高、各利益ともに上場以来の最高額となり、当初の目標を達成することができました。

昨年5月に公表した中期経営計画「THE SECOND FOUNDING STAGE 2017」は、創業より30年以上が経過した今、さらなるステージへ躍進するため、第二創業を銘打って策定したものです。2015年、2017年にそれぞれ連結売上高270億円、350億円を業績目標とし、新たな需要創造と市場拡大に取り組んでまいります。

当期に実施した重要施策として、「当社の強みを活かした売上拡大」がありますが、野菜の機能性研究を活かした提案

型営業の推進、在庫管理や物流を集約した「FSモデル」、徹底した品質・衛生管理等が、お客様に高く評価され業績の拡大につながりました。

また、「事業エリアの拡大による売上拡大の実現」につきましては、前期に開設した九州事業所や、東京FSセンター隣地に新工場の建設に着手するなど事業拠点の拡大を進めております。

今後も、「農と健康を繋ぐ青果物卸売業のリーディングカンパニー」としてさらに企業価値を高め、農業の発展と人々の健康の増進に貢献してまいります。

代表取締役社長

小笠原真清



取締役のご紹介



デリカフーズ株式会社
専務取締役
大阪デリカフーズ株式会社
代表取締役社長

杉 和也



デリカフーズ株式会社
常務取締役
東京デリカフーズ株式会社
代表取締役社長

大崎 善保



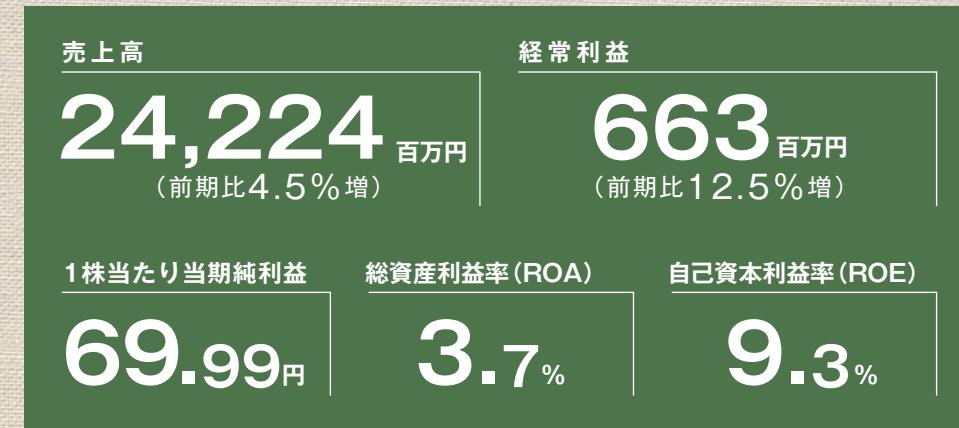
デリカフーズ株式会社
取締役会長

館本 勲武

業績の概況

売上高・全ての利益で、上場以来の最高額を更新！

機能性研究の成果を活かした提案型営業の推進、事業給食を中心とした新規取引開始などの取り組みにより、当連結会計年度における売上高は24,224百万円となり前期比4.5%増、営業利益・経常利益・当期純利益ともそれぞれ増益となりました。



<販売構成比>



カット野菜とは、開封してすぐに食べられる状態にしてあるパッケージ野菜で、外食産業から支持されています。それに対し加工しない野菜そのものをホール野菜と呼んでいます。アイテム数も多く、多様なニーズにお応えできます。

外食・中食と大きく2つの業態に分かれており、全体の8割以上が、外食産業向けの売上となっております。その中でもファミリーレストラン向けの売上が最も多く、次いでファストフード向けとなっております。

新社長 インタビュー



2013年4月8日付で、代表取締役社長に小笠原真清が就任いたしました。中期経営計画を含め、デリカフーズグループの今後の取り組みについてご質問にお答えします。

Profile



代表取締役 小笠原 真清 (おがさわら ますみ)

大学を卒業後、外食産業に従事。その後、食のコーディネーターとして独立。1999年、デザイナーフーズ(株)代表取締役に就任。その後当社取締役として講演や執筆活動も手がける。主な著作として「データが語るおいしい野菜の健康力」(共著、2012年)など。

Q1 デリカフーズグループの強みや 特長は一体何でしょうか？

まず、物流面では、大都市部における強固な営業基盤を軸に、北海道から九州まで日本全国365日体制のチルド配送網で対応できることがあげられます。また製造販売においては、カット野菜・ホール野菜をお客様のニーズに合わせて納品でき、野菜を機能性で販売するノウハウを確立しています。契約産地は全国に広がっており、野菜の調達力には定評があります。さらに、気候や災害などのリスクにも対応できるよう契約栽培農家と協力し、年間を通して安定した供給体制を整えています。

当社は青果物流通業における唯一の上場企業であり、業界のリーディングカンパニーとして、人々の豊かな食生活に貢献してまいりたいと考えております。



Q3 国内・海外エリアの拡大において 具体的施策をお聞かせください。

国内では直営拠点だけでなくFC拠点も含め、2017年までに全国14拠点の設立を計画しており、北海道・東北・中国・四国などのエリアを主な候補地として、検討を進めています。基幹物流の強化と毛細物流網の構築により、さらなる対応エリア拡大を目指してまいります。

海外では中国や台湾などを候補地とし、国内で得た技術・ノウハウを基に調達・生産・販売・開発まで一貫したビジネスモデルを展開したいと考えております。現在は外食・中食などB to Bが中心ですが、今後はより消費者に近い形での販売が必要ですので、B to C企業とのコラボレーションやM&Aなど幅広く検討してまいります。



Q2 今後のグループシナジーについて 考えをお聞かせください。

東京・名古屋・大阪などの主要都市圏を中心に、連結子会社がカット野菜工場と物流センターを保有し、効率的な生産・物流体制を整備しています。また当社グループの研究開発部門を担うデザイナーフーズ(株)では、研究成果に基づく提案型営業を実施しております。野菜に含まれる栄養成分を日本で初めて「抗酸化力」「免疫力」「解毒力」などに分類し、野菜のチカラを数値化して評価するとともに、新たな価値を発見し提案しております。

これらを一般のお客様が体験できる店舗がベジマルシェです。講演やベジマルシェ通信(Couleurs、クルール)の発行などを通して、野菜と健康について幅広く啓蒙活動を行っております。



Q4 新社長として今後の抱負を お聞かせください。

現在はファミリーレストランほか外食やコンビニなど中食が販売の中心ですが、病院・介護施設や企業における事業給食、あるいは消費者に直接販売するなど、まだまだ事業機会のポテンシャルは幅広く存在します。また、企業が成長するためには、人材の成長が不可欠ですので、一人ひとりの社員の成長と幸せを考え、企業と社員お互いが一段上を目指せるような会社にしていきたいと考えております。

人々が野菜を楽しく食べ、健康に暮らせる社会へ。生産農家と消費者を野菜でつなぎ、日本の農業の発展と人々の健康な生活に貢献できるよう、努めてまいります。

これまでの歩み

節目となる第10期を終え、 デリカフーズは新たな成長戦略を描きます。

創業から東証2部上場を経て、当社は青果物流通業のリーディングカンパニーとして着実に成長してきました。そして、さらなる市場拡大を目指して第二創業期がスタート。中期経営計画の下、新たな成長戦略を描きます。

売上高
(百万円)
35,000

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

■ … 売上高
■ … 経常利益



1979 (昭和54年)
名古屋市中区にて創業。



1990 (平成2年)
大阪府茨木市に大阪デリカフーズ(株)を設立。



1997 (平成9年)
本社を名古屋市中川区に移転し、名古屋デリカフーズ(株)に名称変更。



2002 (平成14年)
神奈川県大和市深見西に横浜事業所を移転。



2003 (平成15年)
持株会社としてデリカフーズ(株)を設立。



2005 (平成17年)
東京証券取引所市場第2部に上場。



2007 (平成19年)
大阪デリカフーズ(株)神戸事業所を兵庫県加古郡稲美町に移転。兵庫工場に名称変更。



2010 (平成22年)
東京デリカフーズ(株)が東京FSセンターを新設・稼働。



2012 (平成24年)
東京デリカフーズ(株)が九州事業所を新設・稼働。

中期経営計画

THE SECOND FOUNDING STAGE 2017 ～農と健康を繋ぐリーディングカンパニーへ～

第二創業期として新たな時代を切り開き、更なるステージへの躍進を目標に中期経営計画を策定。「次世代の青果物流通業」「農業・食・健康を繋ぐ提案企業」を目指し、成長戦略を描きます。



2017 (平成29年)

SECOND PHASE 飛躍的成長
■国内エリアの拡大 (M&A含む)
■海外での事業展開
■新規マーケットへの参入

35,000

2015 (平成27年)

FIRST PHASE 成長基盤作り
■事業構造の強化
■成長基盤の構築
■海外での事業展開準備

経常利益
(百万円)

1,500

1,250

1,050

1,000

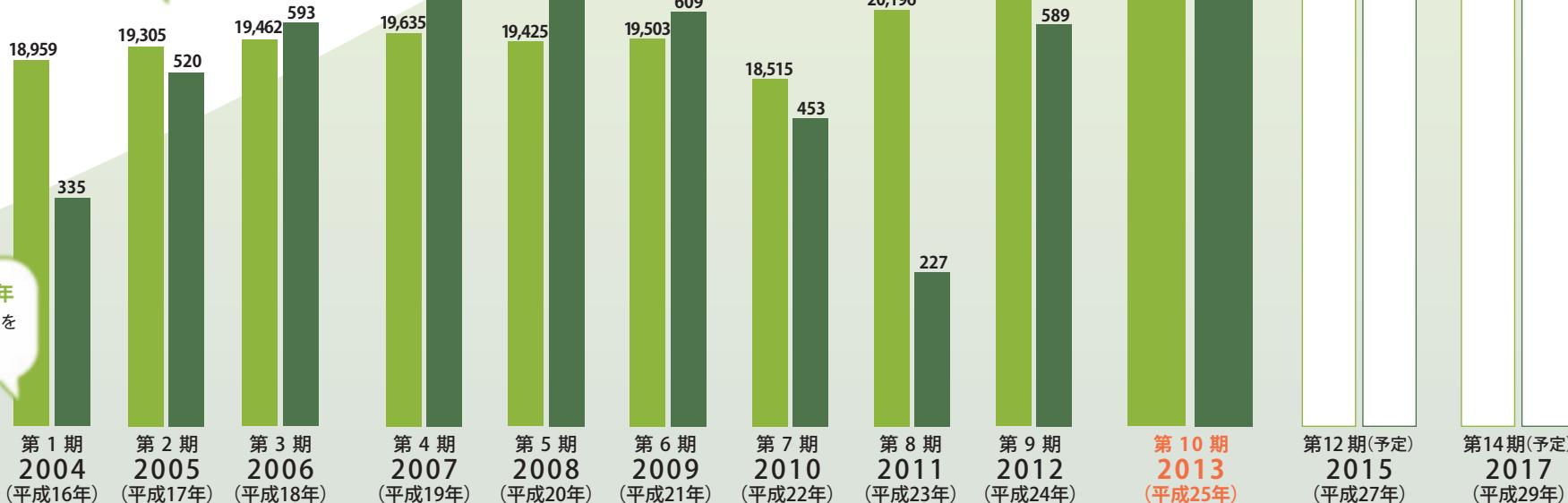
750

500

250

0

創業から上場まで
1979 (昭和54年)～2003 (平成15年)



上場以来の
最高額を更新 /
24,224

ひと目でわかる！デリカフーズ

「業務用の八百屋」が事業コンセプト。生産者と食の提供者を繋ぎます。

当社は、仕入・加工・物流をワンストップで担う商社（卸売業）として、青果物を365日・24時間体制でお客様にお届けしています。事業を通じて、「日本の農業の発展」と「国民の健康増進」に貢献してまいります。農家など「野菜の生産者」と外食など「食の提供者」の中心となり、ネットワークを構築しています。



野菜の生産者

契約農家など各地で生産される新鮮で高品質な野菜を安定的に仕入れます。契約農家は年々広がっています。また研究機関や行政との共同開発にも力を注いでいます。

デリカフーズ

業界でも類を見ない24時間・365日体制で常にお客様をサポート。Fresh & Speedyをキャッチフレーズに新鮮でおいしい野菜の流通を追求しています。

食の提供者

ファミリーレストラン・居酒屋・ファーストフードなどの「外食」、コンビニエンス・惣菜・お弁当などの「中食」、社員食堂などお客様。野菜の生理に合わせたチルド配送網で全国1万店舗に様々な野菜をお届けしています。

デリカフーズ株式会社
Farm to Wellness 倶楽部



FOOD ACTION NIPPON アワード2012
研究開発・新技術部門で
4年連続入賞



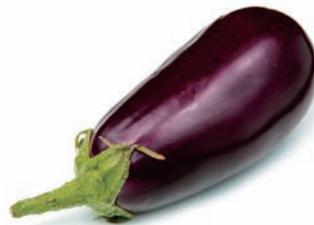
これは食糧自給率向上への優れた取り組みを表彰するもので、当社グループが主催するFarm to Wellness倶楽部が4年連続で入賞しました。ISO22000食品安全マネジメントシステム認証を取得した、少量多品種型カット野菜工場における食品安全強化プロジェクトが消費者の信頼性を向上し、国産野菜の消費拡大や自給率向上に貢献するものとして高く評価されました。

デリカフーズ株式会社
広報室

IRほか各種イベントに出展し
積極的に事業をアピール



B to B企業はどうしても人目に触れる機会が少ないもの。「もっとデリカフーズを知ってもらいたい」そんな想いのもとで、IRや展示会といったイベントに積極的に参加しています。当社の事業内容や、研究成果などをわかりやすくお伝えするためにいろいろな工夫を凝らしています。これからも積極的に参加していきますので、皆さまのご来場をお待ちしております。



デザイナーフーズ株式会社
ベジマルシェ

ベジマルシェがこの春、
リニューアルオープン



2013年4月、「食の薬局」を新たなコンセプトとしてリニューアルしました。ベジマルシェは「美味しいものはカラダに良い。この価値ある事実を広めたい」という当社の思いを具現化したショールーム。これまでセミナーや健康診断などの活動を行ってきました。今回のリニューアルでは、抗酸化系・免疫系・解毒系のサラダを充実させ健康を約束するメニュー提案をしています。



是非新しいベジマルシェへ
お越しください！

店長 市野 真理子さん

東京デリカフーズ株式会社
新工場プロジェクト

東京FSセンターに隣接する
新工場を建設中



中期経営計画における国内エリア拡大の方針に基づき、東京デリカフーズは東京FSセンターの隣地に新工場を建設しています。これまでの技術・ノウハウを活かすとともに、衛生管理の充実した設備を増強することで高品質な商品を生産します。新工場完成は2013年7月を予定しています。

CSR活動のご紹介 @メディカル青果物研究所

カット野菜くずなどの食品残渣で、福島県の復興支援に協力

メディカル青果物研究所の取組みが、平成24年度JST復興促進プログラムに採択されました。原発事故の影響により、森林の枯葉などを堆肥として使用できなくなった福島県で、カット野菜の製造時に出る残渣から肥料を作成しようというも。大容量ミズコンポストにより残渣を生物的に分解。高品質・高機能のバイオ堆肥を開発します。導入に成功すれば、震災復興に貢献するだけでなく、当社の廃棄物処理費を削減し、専属の新規職員の雇用を創出するなどの経済効果も見込め、注目を集めています。





連結貸借対照表 (要旨)

単位:千円

資産の部	第9期	第10期
	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動資産		
現金及び預金	2,483,735	2,292,270
売掛金	2,829,971	2,820,063
有価証券	9,580	17,429
商品及び製品	73,166	63,462
仕掛品	1,888	1,194
原材料及び貯蔵品	32,055	29,720
繰延税金資産	54,027	50,317
その他	64,156	82,909
貸倒引当金	△13,731	△14,011
流動資産合計	5,534,851	5,343,356
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,610,241	1,616,413
土地	2,477,640	3,079,217
その他(純額)	515,486	789,365
有形固定資産合計	4,603,367	5,484,996
無形固定資産		
その他	42,945	38,416
無形固定資産合計	42,945	38,416
投資その他の資産		
投資有価証券	248,529	309,648
その他	220,460	215,229
貸倒引当金	△24,358	△12,309
投資その他の資産合計	444,631	512,569
固定資産合計	5,090,944	6,035,981
資産合計	10,625,796	11,379,338

	第9期	第10期
1株当たり当期純利益(円)	40.18	69.99
1株当たり純資産額(円)	723.12	779.54
自己資本(百万円)	4,236	4,630
自己資本比率(%)	39.9	40.7

※当社は、平成25年4月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の株式分割を行っております。そのため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行なわれたと仮定して1株あたり情報を掲載しております。

単位:千円

負債の部	第9期	第10期
	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
流動負債		
買掛金	1,559,667	1,436,726
短期借入金	400,000	800,000
1年内返済予定の長期借入金	441,738	556,000
未払法人税等	209,742	128,804
未払金	781,218	721,836
その他	176,729	166,791
流動負債合計	3,569,095	3,810,158
固定負債		
長期借入金	2,682,754	2,810,288
その他	137,844	124,512
固定負債合計	2,820,598	2,934,800
負債合計	6,389,694	6,744,958
純資産の部		
株主資本		
資本金	759,755	759,755
資本剰余金	1,591,242	1,572,315
利益剰余金	2,055,668	2,404,633
自己株式	△174,508	△137,471
株主資本合計	4,232,159	4,599,234
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,943	30,867
その他の包括利益累計額合計	3,943	30,867
新株予約権		
新株予約権	—	4,278
純資産合計	4,236,102	4,634,379
負債純資産合計	10,625,796	11,379,338

ポイント 固定資産



固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ18.6%増加し、6,035百万円となりました。これは主として新工場建設のために土地が601百万円、建設仮勘定が288百万円増加したことなどによります。



連結損益計算書 (要旨)

単位:千円

	第9期	第10期
	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
売上高	23,192,595	24,224,674
売上原価	17,537,621	18,195,775
売上総利益	5,654,974	6,028,899
販売費及び一般管理費	5,038,825	5,352,161
営業利益	616,149	676,738
営業外収益	27,664	35,587
営業外費用	54,104	48,673
経常利益	589,708	663,651
特別利益	—	30,941
特別損失	78,583	12,379
税金等調整前当期純利益	511,125	682,214
法人税等合計	275,777	271,007
当期純利益	235,348	411,206



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

単位:千円

	第9期	第10期
	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	662,590	457,158
投資活動によるキャッシュ・フロー	△453,227	△1,146,093
財務活動によるキャッシュ・フロー	△48,102	559,490
現金及び現金同等物に係る換算差額	△41	1,807
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	161,218	△127,636
現金及び現金同等物の期首残高	1,776,279	1,937,498
現金及び現金同等物の期末残高	1,937,498	1,809,861

ポイント 特別利益



特別利益の内訳は主として投資有価証券売却益が16百万円、受取補償金が14百万円などとなっております。

ポイント 特別損失



特別損失の内訳は、主として不動産取得税等が11百万円などとなっております。これは新工場用地の取得によるものです。



連結株主資本等変動計算書 (要旨)

単位:千円

株主資本	第10期 (自平成24年4月1日 当連結会計年度 至平成25年3月31日)	
	当期首残高及び当期末残高	当期変動額
資本金	759,755	—
資本剰余金	1,591,242	△18,926
利益剰余金	1,572,315	411,206
自己株式	—	△174,508
株主資本合計	4,232,159	37,036
その他の包括利益累計額	30,867	△137,471
純資産合計	4,263,026	4,599,234
新株予約権	—	—
純資産合計	4,236,102	398,277
負債純資産合計	10,625,796	11,379,338

ポイント 利益剰余金の当期変動額



利益剰余金は前連結会計年度末に比べ348百万円増の2,404百万円となりました。内訳は剰余金の配当により62百万円の減少、当期純利益により411百万円の増加となっております。

デリカフーズは直営拠点・協力企業とお客様を繋ぎ、 24時間365日、全国1万店舗に野菜をお届けしています。

東京・名古屋・大阪、そして2012年に開業した福岡などの直営拠点、さらに多数の協力会社から新鮮で安全な野菜をお客様にお届けしています。また、入荷・加工・流通の各工程において、低温を維持するコールドチェーンを徹底しております。これまで培ったノウハウや研究開発の強みを活かし、拠点増加や海外展開など積極的に事業を拡大します。

グループの強み
デリカフーズ

販売力

大都市部での強固な基盤
365日体制のチルド配送網
カット野菜製造の技術・ノウハウ

調達力

全国に広がる契約産地
契約率60%を超える調達力
グループ間のバックアップ体制

ブランド力

青果物流通業唯一の上場企業
青果物流通の総合商社
業界屈指の高い利益率

分析力

業界トップクラスの研究開発部門
野菜の抗酸化研究でのパイオニア
世界に例を見ない分析データを保有

を繋ぎ、
24時間365日、全国1万店舗に野菜をお届けしています。

